

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2001年7月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 副会長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:<http://www.nippon-taiko.or.jp> Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

20万人の観衆、「Japan 2001」で太鼓公演 ～日英両国皇太子殿下も「祭り」にご参加～

2001年5月16日から5月26日まで静岡県の富岳太鼓（障害者を含む）と島根県の石見神代神楽上府社中をイギリス並びにアイルランドに派遣いたしました。

外務省より日英両国の文化交流を深め、さらに新しい関係を育てることを目的として開催される「Japan2001」の開会式「祭り」での太鼓公演の要請がありました。また、近隣国であるアイルランドにおいても太鼓公演を実施してほしいという要請を受け、日本財団の支援により実現したものです。公演は、ロンドンのハイドパークで計8回、ロンドン郊外にある英国帝京学園で昼夜公演の2回、アイルランド・ダブリンの劇場で1回、合計11回行いました。

ロンドンのハイドパークでは、流鏑馬、神輿、盆踊り、屋台など伝統的な「日本の祭り」が展開されました。20日にはこの行事の名誉総裁である日英両皇太子殿下も親しく人々のなかに入れられ、この行事の柱でもある「見る文化」と「参加する交流」を体験しておられました。

この2日間の入場者数は合計20万人。太鼓演奏が行われたメインステージにも、広い会場に響き渡る日本太鼓の一打一打の音に驚き、好奇心をつのらせた多くの観客が集まっていました。その人の多さは、皇太子殿下がステージにお近づきになりたくとも一歩もお進みになれない程でした。さらに、富岳太鼓は別ステージで開催された障害者運動会でも太鼓演奏を行いました。

5月22日に英國帝京学園で行なわれたバッキンガムシャー赤十字を支援するチャリティー公演では、車椅子の障害者、地元の小学生などを含む1,000人を前に力強い太鼓、気迫に満ちた演技で大きな拍手をいただきました。

5月24日にはアイルランドのロイヤル・ダブリン・ソサエティという古書に包まれた図書館のような劇場にアイルランドの横尾和子大使をはじめ約800名にお集まりいただきました。アイルランドでは初めての太鼓公演であり、また、蛇のいないアイルランドで八岐大

蛇を演奏しましたが、観客は大喜びで、ここでも大きな拍手と熱狂的な歓迎を受けました。

今回の公演では、初めて障害者太鼓チームを海外へ派遣ましたが、演奏が終り、富岳太鼓が健常者・障害者の合同チームであるとの紹介があると誰が見ても立派な演奏に観衆の大きな拍手と歓声が起きました。

いずれの会場でも、多くの人が集まり、初めて耳にする日本太鼓の響き、神楽の演技には、大きな拍手と声援が長く続きました。在英、在アイルランドの日本大使館、「Japan2001」事務局、バッキンガムシャー赤十字、英國帝京学園の皆様にも、大変喜んでいただきました。

〈派遣メンバー〉

〈富岳太鼓〉

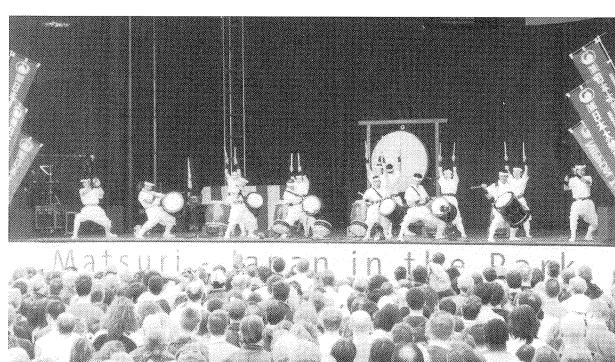
山内強嗣（代表）、早野 均、鈴木進一、須賀有希、五十嵐善一
〈富岳太鼓障害者チーム〉

山内令子（代表）、福田智恵美、芹澤一江、大竹 肇、大川登志夫、石原 純、矢口博司、久保田真喜、小熊華代、金子 勉
〈石見神代神楽上府社中〉

岩川年永（代表）、小林美昭、石田信夫、山崎健二、原田和利、泉 正喜、山村雅則、佐々木裕司、岩川透一、中田美幸、中田正則、栗井裕一、小林日出樹

〈財団法人日本太鼓連盟〉

塩見和子（副会長）、大澤和彦（総務部長）、碇多香子（職員）



(富岳太鼓)

「Japan2001」公演を終えて 富岳太鼓障害者チーム 代表 山内強嗣

富岳太鼓障害者チームは、社会福祉法人富岳会という福祉団体を母体として活動しています。日本太鼓の持つさまざまな特性を活かし、25年前から施設を利用するお年寄りのリハビリテーション、幼児の情操教育、知的障害者のセラピーに和太鼓療育という独自のプログラムを開発し実践、研究を積み重ねてきました。

今回その地道な取り組みを（財）日本太鼓連盟に認められ、イギリスで1年にわたって開催されますビッグイベント「Japan2001」のオープニング公演の大役に抜擢されたのです。

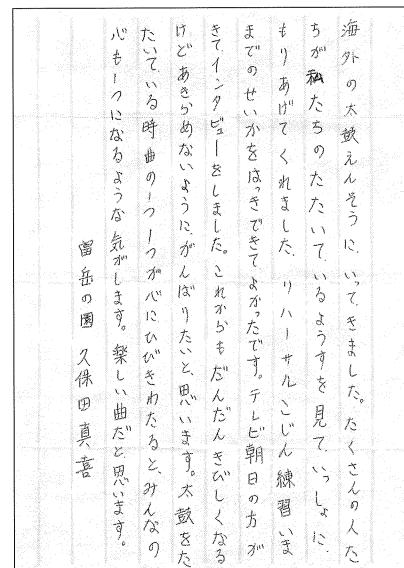
初めてお話をいただいた時は我耳を疑いました。「本当に障害者チームですか？私たちで良いのですか？」思わず聞き返してしまいました。塩見副会長から返ってきたお言葉は、「当たり前じゃない！今あなたたちが行かなくて誰が行くの。胸を張って行ってらっしゃい。」この一言で、腹のそこからパワーが込み上げてきました。

そして私たちの新たな挑戦が始まったのです。障害者だからといって許されるような演奏は絶対したくありません。3ヶ月にわたる猛練習の始まりです。並行して、パスポートを取るための自筆サインの練習、衣装、太鼓の準備、そして最終メンバーの選抜。出発前の予想をはるかに越えた仕事量に、同行する職員は自分の稽古も、準備もままならぬまま当日を迎えたのでした。

出発してからも、13時間の飛行機の長旅。イギリスの気候風土、食べ物の違い。我々の不安は消えません。しかし、彼らはそれを見事に克服してくれました。そればかりか、滞在中は太鼓の演奏に来た日本の代表という意識を常に持ち、フリータイムも待ち時間も、嫌な顔一つせず、次のステージの打合せや稽古に取り組んでくれました。

たった1週間の短い滞在でしたが、帰ってきたメンバーは、見違えるほど成長していました。改めて太鼓の秘めたるパワーと、そして知的障害者の療育に太鼓を取り入れたことが間違っていたことを確信した旅でした。公演も、ロンドンハイドパークでのJapan2001では、2日間で20万人を越えるお客様を動員し、帝京ロンドン学園でのチャリティ公演も大盛況のうちに終了。無事大役を務めあげることができました。

このような素晴らしい機会を与えてくださいました、津田会長、塩見副会長をはじめ、多くの関係者の方々に感謝申し上げます。今回ロンドン公演に参加した障害者チームのメンバーはこの経験が大きな自信となって、一生心の支えになることと思います。本当にありがとうございました。



(障害者チームメンバーからの感想文)

日本文化の紹介Japan2001に参加して 石見神代神楽上府社中 佐々木裕司

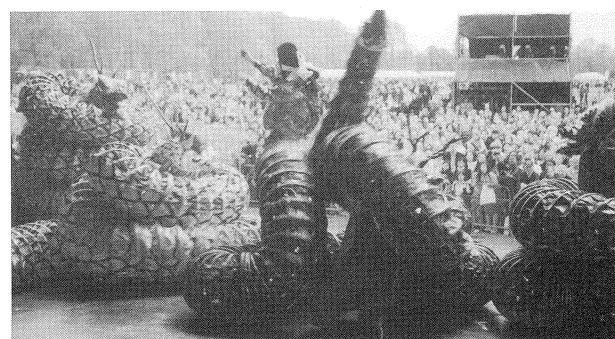
私は今回の公演で、日本文化の奥深さを感じ、太鼓の響き、打ち手の心、訴えかけるものに人は感動することがわかりました。

私達の公演を見にこられた人々は、いつまでもなりやまぬ拍手喝采を投げかけてくださいました。本当によい経験をさせていただいたと思っております。

また、富岳太鼓のみなさんの、聴くものの心を揺さ振るようなソウルビート（魂の響き）。本当にすばらしかったです。障害を乗り越えながら、太鼓に向うその精神、力強さは私達と何一つ変わらない。むしろ私達のほうが見習わなければと感心しました。

私たちは、ドラゴン・ダンスを演じましたが、なかなかメンバーの息が合わずには塩見副会長の叱咤激励を受け、それからの公演は自分でもだんだん良くなっていくのを肌で感じました。本当に嬉しかったです。

10日間という長いようで短い海外公演も終り、帰国して思い返す毎日を過ごしております。この公演を陰で支えていただいたすべての方に、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



(石見神代神楽上府社中)

～大きな歓声と拍手に迎えられた～

◇バルト三国（リトアニア、ラトヴィア、エストニア）での太鼓公演◇

この公演は、外務省の要請並びに国際交流基金の助成を受け、リトアニアで開催されるユネスコ国際会議と近隣国ラトヴィア並びにエストニアにおけるバルト三国の独立10周年を記念し、日本文化の紹介として太鼓公演を実施いたしました。

このため、当財団が長野県の御諏訪太鼓保存会（古屋邦夫代表以下6名）を4月22日から5月4日までの約2週間にわたって派遣しました。

＜派遣メンバー＞

御諏訪太鼓保存会

古屋邦夫（代表）、松枝明美、河西のぞみ、
高林英彦、道之後百合子、田中博信

（財）日本太鼓連盟

塩見和子（副会長）、秋田稔（事業課長）

バルト三国海外公演を終えて…

御諏訪太鼓保存会 河西のぞみ

4月22日、バルト三国最初の地リトアニアに到着しました。到着後、桶胴太鼓の破損という思わぬアクシデントに見舞われましたが、全員で修理をし、太鼓公演へ向けて着々と準備が整っていきました。

4月25日、今回のメインでもあるユネスコ国際会議文化プログラム日本太鼓公演が幕を開けました。この公演には私たちの他にコートジボワール、iran、リトアニアの国々の演奏家も参加し、各国の伝統文化の共演となりました。その中で、私たち御諏訪太鼓の演奏の後には、多くの歓声と拍手を頂き、スタンディングオベーションで会場がわきかえり、私たちも多くの感動に酔いしれました。

翌日、国立フィルハーモニーホールにおいて、私たちは1時間余りに及ぶ単独公演に臨みました。リトアニアには、日本人が17名程しか在住していません。日本の太鼓がどのように伝わるのか不安と緊張で胸がいっぱいでしたが、いつまでも止まぬ拍手と歓声が私たちに大きな感激をもたらしてくれました。

4月27日、小型バスに乗り込み、太鼓を積んだトラックと共に陸路で、国境を越えました。少々緊張しましたが、大使館の方々の連携により太鼓も無事に通関を済ませ、日本人在住者8名程のラトヴィアへ入国しました。

そして、私たちに用意されていた会場は、歴史あふれる旧市街地の中の由緒ある建物「国立シンフォニーオーケストラホール」でした。

リハーサル中にTV局の取材も行われ、緊張も新た

に、29日の公演を迎えました。最初は、リトアニアとの反応の違いに少し戸惑いましたが、自分たちの感情を表に出すことが少ないラトヴィアの人たちの温かい拍手は、私たちの心に深い何かを残してくれたように思います。

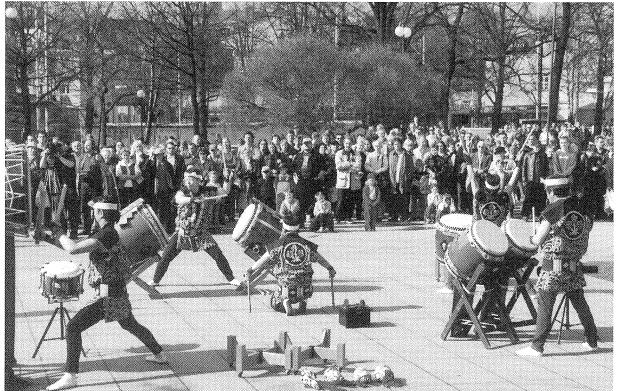
4月30日、バルト海を北上し、最終目的地であるエストニアへ。私たちは空路で、太鼓は陸路にて移動しました。

日本人在住者10名程のエストニアでは、ホールの中庭でデモンストレーション公演とTV局の取材、5日に記者発表と最終公演と日本太鼓を紹介する数多くの時間が設けられていました。中庭での野外公演では、白髪のおばあさんがパンを一切れ下さいました。そして、小さな女の子がお花を摘んでくれました。エストニアの人たちに私たちはどう映ったのでしょうか…。東洋を紹介する音楽祭の一環として行なわれ、最終公演も会場いっぱいの鳴り止まぬ拍手の中、この三国を振り返り、日本の太鼓に対する反響の大きさを私たちメンバーは、しっかりと心に刻み込むことが出来ました。

こうして、未知の国とも言えた三国での13日間におよぶ太鼓公演は、感動の中、無事終えることが出来ました。これもひとえに、各国の日本大使館の方たちの親切な対応といつもあたたかい励ましやご指導を下さった塩見副会長、秋田さんのお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

これからも、この貴重な経験を忘れることなく、今後の活動に生かしていきたいと思います。

最後にこのような機会を与えてくださった関係者の皆様に、深く感謝いたします。ありがとうございました。



（エストニア・タリン市内での野外公演）

21世紀の日本太鼓の普及に向け各種会議を開催 ～理事会・評議員会、代議員会～

＜理事会・評議員会＞

第8回理事会並びに第7回評議員会が6月12日に開催されました。次の事項が審議され、可決承認されました。

1. 2000年度事業報告及び決算について

2000年度事業報告及び決算については、詳細の説明の後、全員異議なく、原案どおり可決承認された。なお、監事を代表して宮地監事より次のような監査状況の報告があった。「去る5月15日財団事務所において、長内監事と共に、2000年度事業報告書及び決算書、帳簿、証拠書類等を詳細に監査した結果、いずれも適正かつ正確に実施、処理されていることを確認した。特に、事業においては、1999年度に比較し、一段と充実してきていることを認めたので、改めて申し添える。」

2. 2001年度事業計画及び収支予算の一部変更について

2001年度事業計画及び収支予算の一部変更については、変更の理由を説明し、全員異議なく、原案どおり可決承認された。なお、変更の主な理由は次のとおりである。

事業内容が確定し、その結果、当財団に対する日本財団の助成金額が、競艇の売上減少を反映し、やや減額された。しかし、事業の実績が評価され、前年度に比べると助成金総額は増額となっている。

3. 事務所移転について

財団事務局は、設立以来日本音楽財団の事務所を一部借用して今日まで運営してきた。

予てより、事務所を独立して事務局運営にあたるべく関係機関とも協議していたが、このたび、日本財団が新ビルに移転することに伴い、当財団並びに日本音楽財団も日本財団新ビルに移転することになった。新ビルは国際的な情報発信基地として改装したものである。

なお、移転は7月18・19日の両日を予定している。
(新事務所の詳細は、6ページに記載)

＜代議員会＞

第4回代議員会が6月22日に開催され、39名中27名の代議員が出席しました。次の事項が審議され、可決承認されました。

1. 2000年度事業報告並びに決算報告について

海外公演の派遣候補団体に関する選考基準を明示してほしい旨の要請があった。これに対し、財団で実施した日本太鼓全国フェスティバル等の事業の演奏ビデオによる選考を派遣要請機関が重視していること、派遣条件(5名前後のチーム構成で、日本代表としての技術を有し、1時間以上の演奏が可能であること。無償に近い条件で3週間以上の日程に参加可能であること。)を満たすことなど選考の経緯を説明した。さらに、派遣条件を満たすチームがあれば、事務局へビデオ等を送付するなど、各支部においても積極的に協力願いたい旨の要請を行った。

2. 2001年度事業計画並びに収支予算について

事務局より資料を基に説明を行い、特に異議がなく了承された。また、2002年度日本太鼓支部講習会の開催希望を募ったところ、東北海道、山形県、栃木県、千葉県、東京都、埼玉県、長野県、茨城県、石川県、鹿児島県の10支部より開催の希望があった。

3. 支部の開設と名称変更について

新規開設支部の兵庫県、奈良県の説明があり、代表者より挨拶があった。また、北海道・釧根支部の名称が東北海道支部と変更になるため、その経緯について説明があった。

4. 2001年度支部及び会員の現状について

未開設13支部については、今後更に実情を把握し、各支部の協力を得て、支部開設へ向けて努力していくこととした。

5. 会費納入状況について

本来の会費納入期日である5月末日を厳守することと未納の8県については、早急に納入されたいとの要請を行った。

6. 評議員（第3期）地区推薦について

全国6ブロックを代表する評議員候補者を各地区より8月末日までに推薦願いたい旨の要請を行った。

2002年度日本太鼓助成金交付事業の締切り迫る

2002年度の日本太鼓助成金交付申請を2001年9月末日で締め切ります。

希望団体は早急に書類を整え、締切期日までに当財団宛に申請を行って下さい。

支部名称変更のお知らせ

当財団の支部であります北海道・釧根支部が、このたび「東北海道支部（支部長・及川勝氏）」と名称を変更することとなりましたので、お知らせいたします。

多くの参加者が集い、各地で講習会を開催 ～全国講習会（長野県）、支部講習会（石川県、大分県）～

第11回日本太鼓全国講習会が6月9・10日、長野県穂高町牧区体育館を中心に行われました。

地元長野県をはじめ、北は北海道、南は宮崎県まで、21都道府県から250名の太鼓愛好者が参加しました。開講式は、財団を代表して小野常務理事、主管団体より小口支部長の挨拶があり、続いて藤原穂高町助役より歓迎の挨拶がありました。また、会場に当財団の事業活動を伝えるパネルが展示され、多くの受講者が熱心に見ていました。

各講座が開始され、講師の厳しい指導のもと、受講生は汗を流して技術の習得に励んでいました。

閉講式は、塩見副会長、小口支部長より挨拶があり、講習会は無事終了しました。閉講式終了後、公認指導員の認定式が行われ、1級公認指導員に認定された北海道の塚原茂夫氏、当財団の認定制度開始時より技術認定を経て初の3級公認指導員に認定された高島奈々、笑美氏の姉妹に塩見副会長、小口支部長よりそれぞれ認定証、認定バッチが授与されました。

○専門講座

御諏訪太鼓講座	講師	小口 大八氏
ゆふいん源流太鼓講座	講師	長谷川 義氏
銚子はね太鼓講座	講師	宮崎 義政氏

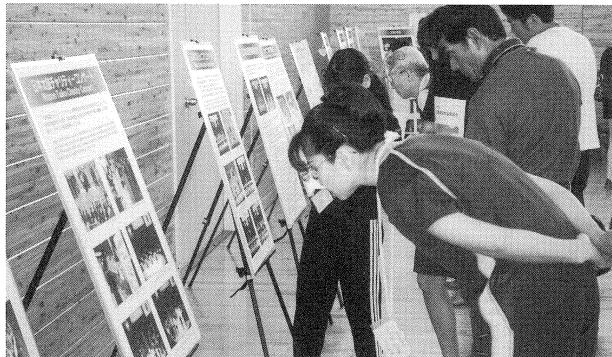
○基本講座

3級基本講座	講師	松枝 明美氏
4級基本講座	講師	安江 信寿氏
5級基本講座	講師	古屋 邦夫氏
	講師	羽土 聰氏

技術認定試験の結果は次の通りです。

1級検定	8名受験	7名合格(2名認定)
2級検定	47名受験	37名合格(6名認定)
3級検定	44名受験	36名認定
4級検定	47名受験	45名認定
5級検定	79名受験	79名認定

* 技術レベルの向上により、検定試験の合格が厳しくなっておりますので、気を引き締めて試験に臨んで下さい。



(パネルを熱心に見つめる受講生)

第5回日本太鼓支部講習会（石川県）

第5回日本太鼓支部講習会が石川県支部主催により5月12・13日、石川県尾口村総合センター北竜会館において開催されました。

4級・5級基本講座が設けられ、108名の受講者が参加しました。希望者に対し、技術認定試験(学科・実技)が行なわれました。

4級検定 16名受験 16名認定

5級検定 80名受験 80名認定

第6回日本太鼓支部講習会（大分県）

第6回日本太鼓支部講習会が全九州太鼓連合、大分県支部主催により6月23・24日、大分県湯布院町立スポーツセンターにおいて開催されました。

4級・5級基本講座に加え、締太鼓、笛、抱え桶、九州の響きの4専門講座が設けられ、260名の受講者が参加しました。希望者に対し、技術認定試験(学科・実技)が行なわれました。

4級検定 36名受験 36名認定

5級検定 79名受験 79名認定

この結果、公認指導員・技術認定員の現在数は次のとおり。

<公認指導員>

1級24名、2級73名、3級137名、総数236名。

<技術認定員>

1級5名、2級24名、3級157名、4級324名、5級1,333名、総数1,843名。

公認指導員と技術認定員の総数は、2,079名となりました。



(1級公認指導員塚原氏への認定証授与)

●第5回日本太鼓チャリティーコンサートを開催●

～震災より6年、兵庫県支部設立を記念して～

(財)日本太鼓連盟主催による第5回日本太鼓チャリティーコンサートを日本財団の助成事業として6月6日東京・草月ホールで行いました。

毎年、公益団体の活動支援を目的に行われておりますが、今年は先の阪神大震災より6年、生まれ変わろうとしている兵庫県に当財団の支部が設立されたことを記念して開催されました。

当日は、日本を代表する伝統文化である日本太鼓の素晴らしさを広く紹介するため在日外国高官及び政・官・財界のオピニオンリーダーの方々を招待し、300名以上の出席者で会場が埋まりました。

演奏会前に行なわれたレセプションの会場には、震災当時の写真と兵庫県支部並びに当財団の活動を伝えるパネルが展示されました。

コンサートは主催者から塩見副会長が挨拶を述べた後、この度、支部が設立された兵庫県より合同チーム、全国各地から選抜された代表的な太鼓チーム並びに第3回日本太鼓ジュニアコンクールで優勝した大分県・ゆふいん源流少年隊を加えた6チームによる演奏が行われました。

出演チームはそれぞれ特色ある演奏と力一杯の桴さばきを披露し、観客からは大きな拍手が贈られ、帰り際に多くの方から「感動した」との感想をいただきました。

出場チーム

・霧島九面太鼓 和奏（鹿児島県）

・兵庫県支部合同チーム

神戸太鼓保存会&越部鼓

・七尾豊年太鼓保存会（石川県）

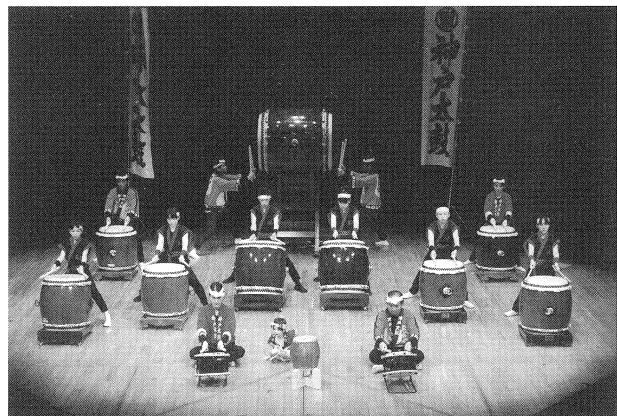
・ゆふいん源流少年隊（大分県）

・秩父祭屋台囃子保存会（埼玉県）

・なまはげ太鼓伝承会（秋田県）

* 募金総額611,700円は太鼓を購入し、震災復興を記念して兵庫県支部へ寄贈しました。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



(兵庫県支部合同チーム)

7月19日(木)に事務所移転

7月19日(木)に当財団の事務所が移転いたしました。

移転先は下記のとおりとなっておりますので、お近くにお寄りの際は、是非お立ち寄りください。

2001年7月19日(木)

<移転先住所>

〒107-0052

東京都港区赤坂1-2-2

日本財団ビル5階

TEL. 03-6229-5577

FAX. 03-6229-5580

ホームページ、E-mailは従来どおり。

<交通機関>

銀座線「虎ノ門」駅

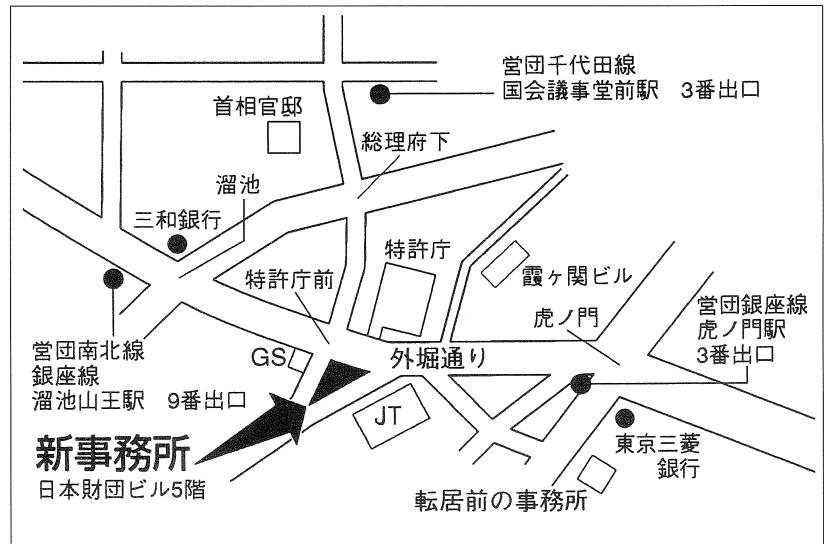
下車3番出口 徒歩5分

銀座線・南北線「溜池山王」駅

下車9番出口 徒歩5分

千代田線「国会議事堂前」駅

下車3番出口 徒歩7分



日本太鼓と学校教育—⑥

元島根県三刀屋町の教育長を務められ、現在（財）日本太鼓連盟の技術委員でもある島根県の景山道隆氏から日本太鼓と学校教育について寄稿していただきました。

指導者と後継者の育成が太鼓界にとってますます重要　掛合太鼓ジュニア代表 景山 道隆

私が太鼓に関わったのは、島根県に国体が誘致されることになった今を去ること30年前です。この掛合町でも全国に紹介できる新しい郷土芸能としての太鼓を作ろうと、時の町長の発案により、当時、その町で音楽の教師をしていた私に太鼓作りへの白羽の矢が立てされました。

当時はまだ、現在のような組太鼓はあまりなく、見よう見まね、悪戦苦闘のうちに作り上げたのが現在の「掛合太鼓」です。太鼓を通して“ふるさと”的な良さを見直させようと、町内5地区で構成しました。

太鼓の発展は、子供づくりからの私の意見を受けた町長は、町内6つの小・中学校へ太鼓のセットを常置され、これを受け「ゆとりの時間」を利用して各小学校を回りました。私の勤務する中学校では、週2時間の音楽授業のうち1時間は太鼓の指導にあてました。その頃としては文部省からきつい叱りを受けるようなことをしていたのですが、当時の生徒達は、ベートーベンの話により、太鼓のバチで尻を叩かれたこと、手にまめができたことなどをよく覚えていて、懐かしく話してくれます。また、クラブ活動の時間には全校生徒の4分の1が太鼓クラブに入っていました。夏祭りと秋のふるさと祭りでは5年生以上の児童と中学校のクラブの生徒が揃い打ちをすることが恒例になっており、今も続いているが、誠に壯観です。2002年から学習指導要領の改訂で1種類以上の和楽器の指導が義務づけられます。「総合的な学習の時間」にも多様な教材が考えられるようになり、太鼓が取り入れられる可能性も多

* 島根県では、11月24・25日に島根県大田市において、第12回日本太鼓全国講習会を開催します。
多数の参加をお待ちしています。

くなったわけです。この掛合町では30年も前から取り組んで、この先取りをしていたわけです。45歳以下の町民は全員太鼓の授業を受けてきているので、太鼓に対する理解は非常に良く、町民の8割は太鼓の後援会員です。

そこで、今後の課題ですが、和楽器指導が義務づけられ「総合的な学習の時間」の内容に取り入れができるようになったといつても、それは全部太鼓が採用されることではないということです。琴もあれば尺八・三味線・笛だって和楽器ですし、神楽や盆踊り、田植えなどしだって立派な教材になり得るわけですから、安心しておれません。義務づけられた和楽器指導や総合的な学習の時間にぜひ和太鼓が採用してもらえるように、我々のほうから積極的に努力しなければならないことは当然のことです。町や地区の行事に積極的に参加し、地元に根づいた芸能として定着させねばなりません。また、前述のように、町長の考えで太鼓が出来たり、私の教育長時代に「三刀屋太鼓」や「三刀屋太鼓Jr.」ができたように、首長をはじめとする行政・議会の理解を得ておくこともまた大切なことです。

今を華やかに盛り上げることも当然大切なことです、太鼓の将来・太鼓の未来を展望して、指導者と後継者の育成を最重点課題として取り組んでいかなければなりません。

21世紀を担ってたつ子供達をしっかりとみつめ、育てていくことは、我々の大きな責務と考えます

新たに1級公認指導員が2名誕生

アメリカ各地で33年間、日本太鼓の普及に尽力されたサンフランシスコ太鼓道場代表の田中誠一氏並びに東北海道支部より推薦のあった塚原茂夫氏が4月27日に開催された運営委員会で1級公認指導員に認定されました。この結果、1級公認指導員の現在数は、26人となりました。

また、同委員会で斎藤通夫氏（福島県）が2級公認指導員へ昇級、高島奈々、笑美氏（岐阜県）の姉妹が初めて技術認定員から3級公認指導員へ昇級し、それぞれ認定されました。さらに、栃木県より推薦のあった上敬夫、小室忠史の両氏が3級公認指導員に認定されました。

*なお、北海道の塚原茂夫氏は、地元の「北海道新聞」、「釧路新聞」に大々的に紹介されました。

事務局だより

全国植樹祭に参加して

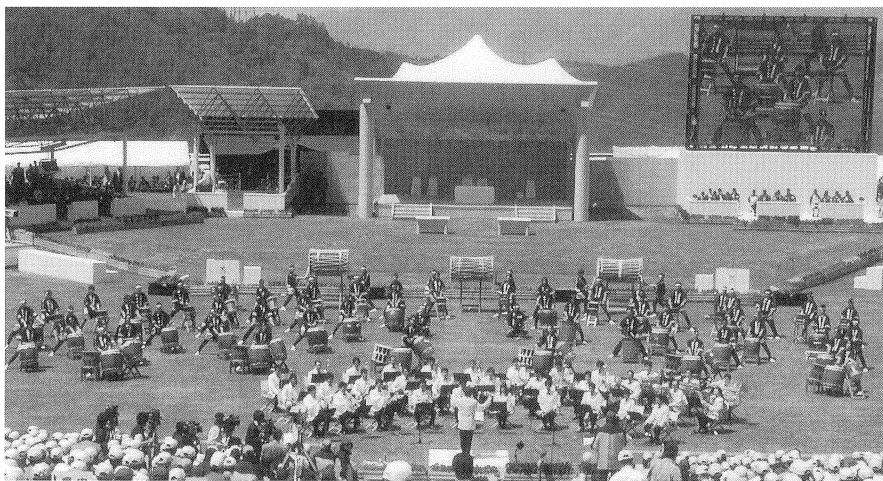
甲州ろうあ太鼓 代表 小野智弘

第52回全国植樹祭が、山梨県須玉町みずがき山麓で5月20日に開催されました。「植樹祭に太鼓の演奏を」と耳にしたのが、昨年の11月中旬、今まで経験したことのない演奏形態で状況は非常に厳しい内容です。太鼓の人員120名のほか、プラスバンド等が入り総勢160名となりました。

曲は田中賢氏作曲の“山響”、譜面を見れば16分音符がぎっしり並んでいて目が回りそうでした。しかも、天皇皇后両陛下の御前演奏であると共にNHKで全国放送されるとのこと。人数、パートの調整に大変手間取りました。

すったもんだの糺余曲折を経て、いよいよ本番当日、県連の揃いの法被を着用して演奏に臨みました。一回目の演奏は多少のばらつきがありましたが、二回目の御前演奏では信じられないような出来栄えで完璧といっても過言ではない見事な演奏でした。思わず両陛下の御席に目を移すと、耳元でお話をされているご様子、きっとご満足されたことと拝察しました。

山梨県太鼓連盟として大役を無事に果たせ、肩の荷を下ろすことができました。当初は全く無理な注文とも思えた事業も人々の結束と使命感、そして心意気があれば、必ず良い成果が得られる事を再認識しました。



「故 笹川良一會長を偲ぶ会（七回忌）」

今日の日本太鼓の普及・振興に多大な貢献をされた当財団の前身である全日本太鼓連盟笹川良一會長の「故 笹川良一會長を偲ぶ会（七回忌）」が水心会（競艇関係団体で構成）の主催より5月11日に笹川記念会館で関係者約800人が列席して、厳かに執り行われ、故人を偲びました。

「颯爽たる人生・笹川良一」を出版

笹川良一前会長の知られざる素顔について元側近が明かす「颯爽たる人生・笹川良一」が出版されましたのでお知らせいたします。

「颯爽たる人生・笹川良一」
(著者) 神山榮一 (発行) 株扶桑社
1800円 (税込み)



各地のたより

●2001年7月20日（金） 国際交流ふれあい太鼓公演「童・刻・無」（岐阜県高山市）

（主催：飛驒の国和太鼓衆 童心、会場：高山市民会館大ホール）

●2001年7月22日（日） 2001岐阜県太鼓まつり（岐阜県岐阜市）

（主催：財日本太鼓連盟岐阜県支部、会場：たかす村民センター）

●2001年7月28日（土） 第16回富士山太鼓まつり（静岡県御殿場市）

（主催：富士山太鼓まつり実行委員会、会場：富士山御殿場口駐車場）

●2001年8月19日（日） 第16回霧島高原太鼓まつり（鹿児島県姶良郡）

（主催：霧島高原太鼓まつり実行委員会、会場：鹿児島県霧島国際音楽ホール）

●2001年8月19日（日） 第1回兵庫県太鼓ジュニアフェスティバル（兵庫県新宮町）

（主催：財日本太鼓連盟兵庫県支部、会場：兵庫県新宮町福祉社会館ふれあい）

●2001年9月30日（日） 2001いわて太鼓フェスティバルINくずまき（岩手県岩手郡）

（主催：財日本太鼓連盟岩手県支部、会場：葛巻町社会体育館）

●2001年10月21日（日） 平成13年度全国フェスティバル（岩手県陸前高田市）

（主催：全国太鼓フェスティバル実行委員会、会場：岩手県陸前高田市民体育館）